

*京都府青少年育成協会会長奨励賞

「戦争と平和」

京都市立衣笠中学校 3年
江口 織都

私は戦争について考える。

最近、世間では戦争について考える機会が多くあるように思う。私は修学旅行で沖縄の伊江島へ行った。他にも、テレビを見たり、本を読んだり、社会の歴史分野で教わったりする中で、戦争について考えた。

日本人が戦争と聞いて思い浮かべるのは、1941年に真珠湾攻撃を行ったことから始まった、太平洋戦争であろう。この戦争によって、第2次世界大戦は、ヨーロッパからアジアまで広がっていった。日本軍は、初めは勝利を重ねるものの、ミッドウェー海戦以降は敗戦の一途をたどることになる。本土での空襲、特攻隊の出撃、沖縄の地上戦。そして広島、長崎への原子爆弾投下。人々は苦しみ、辛い思いをたくさんしたと思う。今の平和な世の中に住む私達の想像を絶するものだったのだろう。1945年8月15日。第2次世界大戦は終わりを告げる。

私が修学旅行で沖縄の伊江島を訪れた時、ホームステイした先でお世話になったおばあさんと一緒に、車で戦争の爪痕を見て回った。150人の人々が自決をしたガマや、弾痕が多く残る公使館。多くの航空隊が出撃していった滑走路や、アメリカ軍基地。私はガマの中にいた人の気持ちや、飛び立っていく航空隊の人の気持ちを想像してみた。それは、計り知れない恐怖だった。当時、本当にその状況下に置かれた人々の気持ちは、私が感じた恐怖を上回るものだったのだろう。

伊江島は、沖縄地上戦の激戦地の一つだったそうだ。今の美しく青い海と空を見ていると、ここで戦争が起こっていたとは思えなかった。

今から70年ほど前は、日本とアメリカが戦っていて、人同士が傷つけ合っていたなどは、この平和な世の中に生きる私にとっては信じ難い話だ。しかし、それは現実に起こったことだ。考えれば考えるほど怖くて仕方がない。そんな時代を生きていた人のことを思うと、胸が苦しくなる。

日本だけではない。世界中の戦争で戦った人、戦争によって傷ついた全ての人々が苦しんでいたのだと思う。

戦争の多くは、自国の利益だけを考え、領土を広げようとしたりすることから始まっている。そのために多くの人が犠牲になった。領土や利益を手に入れるためなら、犠牲者を出すこともいとわないのか。人間にとって一番大切な命を奪うのか。私はおかしいと思う。多かれ少なかれ、犠牲になった人々の人生を奪って手に入れた利益に何の意味があるというのだ

ろう。

戦争をすれば、必ず犠牲を払うことになり、お互いに傷つけ、傷つけられ、傷だらけになってしまう。そこから生まれるのは憎しみと悲しみだけだ。戦争は二度と起こしてはならない。

今、日本とアメリカの間には、軍基地の問題がある。また、韓国との間には慰安婦問題や竹島問題、中国との間には尖閣諸島の問題、ロシアとの間には北方領土問題もある。これらを解決するためには、第2次世界大戦やそれ以前の戦争についてもう一度振り返り、素直にお互いの過ちを認め合い、許し合うことが必要だと思う。そして、戦争の壁を乗り越えて、助け合っていくことが大切である。

ヨーロッパやアフリカの国々に目を向ければ、テロが繰り返され、今も危険な状態にある。テロもまた、人を傷つけ、自分の命まで犠牲にしてしまう。

武力で人を傷つけても何も変わらない。新たな憎しみと悲しみが生まれるだけだ。そしてまた、争いが起こっていくかもしれない。

これでは何の解決にもならない。そのことに世界中が気付くことができれば、世界は本当の意味で「平和」に近づいていくと思う。

世界中が一刻も早く「平和」になることを心から願う。